

# 活気ある社会づくりと

# 日本語教育

外国人だけに役立つと思われてきた日本語教育は、じつは日本人や日本社会にとっても、身近で具体的な効果や長期的で広範な波及効果を生み出し、今まさに日本が必要とするものです。本シンポジウムでは、「コミュニケーション論、言語学、文化人類学の専門家や経

済人が論じ合う中で、そのことを浮き彫りにします。さらに、日本語教育政策の現状を踏まえ、長期的で包括的な視野に立った政策のあるべき姿について、この課題と真剣に向き合ってきた与野党の国会議員が論じ合います。

地域活性化

新しい発想

経済の若返り

雇用創出

自己の再発見

絆づくり

コミュニケーション力

国際化

多文化共生

ソフトパワー

## プログラム (敬称省略)

### ■ 開会式 13:00~13:20

ご挨拶

尾崎 明人 (日本語教育学会会長)

山内 進 (一橋大学学長)

財界人 (予定)

### ■ 基調講演 13:20~14:10

平田 オリザ (劇作家・演出家、大阪大学、内閣官房参与)

「コミュニケーション力と日本語教育」

### ■ パネルディスカッション 14:20~16:00

「活気ある社会づくりと日本語教育」

大津 由起雄 (慶応義塾大学)

陳 天璽 (国立民族学博物館)

井上 洋 (日本経済団体連合会)

コメンテータ: 平田 オリザ (劇作家・演出家、大阪大学)

司会: 野山 広 (国立国語研究所)

### ■ 政策展望 16:20~17:00

「日本語教育政策の現状とあるべき姿」

中川 正春 (前文部科学副大臣)

馳 浩 (衆議院文部科学委員会 自民党理事)

司会: 今村 和宏 (一橋大学)

● 総合司会: 嶋田 和子 (イーストウエスト日本語学校)

日時

2011年 6月26日(日)

13:00~17:00

受付開始 12:00

会場

一橋大学

西キャンパス 兼松講堂

●JR中央線国立駅から徒歩6分

参加費: 1,000円

主催: 日本語教育学会 企画: 日本語教育学会「日本語教育振興法法制化ワーキンググループ」 協賛: アスク出版、アルク、くろしお出版、スリーエーネットワーク、凡人社 後援: 文化庁、内閣府(申請中)、国際交流基金、国際日本語普及協会、国際文化フォーラム、国立国語研究所、自治体国際化協会、中国残留孤児援護基金、異文化間教育学会、言語系学会連合、社会言語科学会(申請中)、地域活性化学会、日本国際理解教育学会、日本語政策学会、全国日本語学校連合会、全国日本語教師養成協議会、日本語教育振興協会

- 参加方法: メール予約 [webapply@nkg.or.jp](mailto:webapply@nkg.or.jp)
- タイトルを「6.26参加希望」とし、お名前、ご所属を明記
- 締め切り: 4月1日(金)~6月21日(火) ● 先着600名

お問い合わせ先: (社)日本語教育学会事務局  
Tel: 03-3262-4291 Fax: 03-5216-7552

★最新情報は <http://www.houseika2012.net/wordpress/>

私たちは、外国人をはじめとする情報弱者への支援、日本語によるコミュニケーション力の育成活動を通じて、震災後の社会復興に貢献します。

# 登壇者のプロフィールとメッセージ (敬称略)

## 平田 オリザ (ひらた おりざ)

劇作家、演出家。青年団主宰、こまばアゴラ劇場支配人、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授、内閣官房参与。「リアルな演劇」「静かな演劇」の旗手として活躍している。代表作に『東京ノート』、『月の岬』、『その河をこえて、五月』、著書に『芸術立国論』などがある。



©T.Aoki

日本が抱えている閉塞感を打開するためには、「内なる国際化」によって意識を改革し、対話教育と演劇的手法で、日本人のコミュニケーション力を高める必要があります。これは、海外における日本語教育、国内における日本語教育、そしてさらには国語教育も含めた大きな変革となるでしょう。私も、作家として、教員として、内閣のお手伝いをしている立場で、この動きを応援したいと思います。

## 大津 由紀雄 (おおつ ゆきお)

慶應義塾大学言語文化研究所教授、日本学会言語学連携会員。Ph.D. (MIT、言語学)。専門分野は言語の認知科学 (母語獲得、統語解析、言語教育など)。言語教育関係の著書に『ことばの力を育む』(共著)、『探検! ことばの世界』、『ことばのからくり』などがある。



多言語化・多文化化が進む日本社会にあって、日本語教育には期待しています。「日本語を母語としない人々を対象にした、日本語の教育」に留めることなく、日本語を母語とする人々に「ことば」という視点を提供してほしいですね。国語教育と英語教育に対する提言があれば、三者が一体となった言語教育の実現も夢ではありません。

## 陳 天璽 (ちん てんじ)

国立民族学博物館准教授。国際政治経済学博士。専門は移民・マイノリティー研究、特に華僑華人、無国籍者に光を当てる。2002年アジア太平洋研究奨励賞受賞。著書に『華人ディアスポラ』、『無国籍』、編著に『忘れられた人々 日本の「無国籍」者』などがある。



日本では、外国人の増加に伴い国際結婚が増え、多民族化が進展し、外国にルーツを持ちながら日本に生まれ育つ子どもたちが増えています。中には「日本国民」である人も多くいます。日本社会において、彼らはどんな境遇にあり、何を思い、また、どんな役割と可能性を持っているのか。それを日本語教育と絡めてお話します。

## 井上 洋 (いのうえ ひろし)

日本経済団体連合会 社会広報本部長。1980年、早稲田大学商学部卒、経団連事務局入局。総務本部・秘書グループ長 (奥田碩元会長秘書)、産業第一本部長を経て、2009年より現職。これまで、外国人受け入れ問題に係る諸課題、移民政策などの提言とりまとめを担当。



日本は、50年で人口が30%近く減少し、少子高齢化によって、成長が止まる恐れがあります。成長を維持するには、新技術・新製品を開発し、急拡大するアジアの需要を惹きつける戦略をリードする人材を育成し確保しなくてはなりません。外国人にも「学びたい、働きたい、生活してみたい」と思わせる魅力的な国づくりが急がれます。

## 中川 正春 (なかがわ まさはる)

衆議院予算委員会 民主党筆頭理事。米国ジョージタウン大学国際関係学科卒。三重県議会議員3期。衆議院議員5期。鳩山内閣、菅内閣で文部科学副大臣。科学技術への投資拡大、大学の国際化、外国人労働者の子女教育、日本語教育に取り組む。



地元三重県鈴鹿市は人口の5%が外国人。副大臣在任中は、日本語教育関係者からの要望も受け、日本語教育の体制整備や基本方針の策定にも力を入れました。ただ、やっとスタートラインに立ったところです。

## 馳 浩 (はせ ひろし)

衆議院文部科学委員会 自民党理事。元高校国語教諭。元プロレスラー。参議院議員1期。衆議院議員4期。文部科学政務官、副大臣、自民党文教部会長を歴任。2007年、与野党対決色の強い中、児童虐待防止法改正を超党派でまとめ上げる。



この国の未来にとって日本語教育はきわめて重要。包括的な政策のためには、裏付けとなる根拠法やマスタープランがぜひとも必要です。みなさまの応援があれば、それを超党派で練り上げることもできると思います。

### 日本語教育学会 公開シンポジウム

### 活気ある社会づくりと日本語教育

日時: 2011年 6月26日 (日)

13:00~17:00 受付開始: 12:00

会場: 一橋大学 西キャンパス 兼松講堂

メール予約 [webapply@nkg.or.jp](mailto:webapply@nkg.or.jp)

#### 一橋大学へのアクセス

東京都国立市中2-1

●JR 中央線国立駅 南口から徒歩約6分

●JR 南武線谷保駅 北口から徒歩約20分、バス約6分



多彩な登壇者が集う貴重な機会です。お誘いあわせの上、ふるってご参加ください。主催者一同、みなさまのお越しを心よりお待ちしております。



今村 和宏



嶋田 和子



野山 広